

診療局：脳神経内科

<スタッフ紹介>

役 職	スタッフ名
臨時嘱託医員	中村 雄作

<特色と概要>

－診療の内容と特色－

- 脳神経内科は、南泉州地域の神経難病基幹病院として、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症など神経難病の診断・治療を中心に診療を行っている。
- 体の震え(振戦)やジストニア(痙性斜頸など)などの不随意運動症の診断治療や脳卒中後遺症などによる痙縮などへのボツリヌス治療を行っている。
- 脳神経内科専門診療として、脳神経内科専門医による外来を中心に組みんで、専門性の高い診療を行っている。
- 神経難病基幹施設として紹介型施設であり、医師会や他病院と連携して診療を行っている。

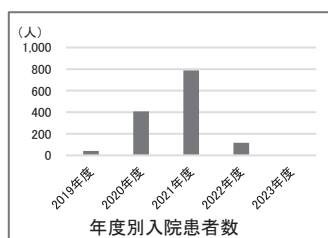
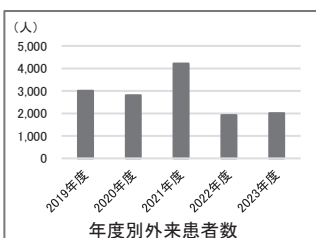
－対応疾患－

- ボツリヌス治療外来:痙性斜頸、顔面けいれん、眼瞼痙攣、上下肢痙縮など
- 神経難病(国の指定する難病疾患に対応している。):パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、多発性硬化症など
- 脳梗塞などの脳血管疾患や脳卒中後遺症でボツリヌス治療対象症状を有する方など
- 頭痛、てんかん、失神などの脳機能異常症に関連する疾患
- 手足の震え(振戦)、不随意運動などの異常運動症の診断と治療

<実績>

患者数(外来及び入院、延べ人数の推移) (人)

年度	外来		入院	
	延べ患者数	1日平均	延べ患者数	1日平均
2019年度	3,005	12.4	41	0.1
2020年度	2,806	11.5	408	1.1
2021年度	4,218	17.4	787	2.2
2022年度	1,928	7.9	117	0.3
2023年度	2,011	8.3	0	0.0



<今年度の反省と来年度への抱負>

入院患者や外来患者数が少ないが、外来での継続診療を維持していきたい。マンパワーの確保に注力したい。

文責：広報・年報編集委員会 委員長 増田大作